

2025（令和7）年度埼玉県・オハイオ州スカラシップ  
最終レポート「別れとこれから」

令和7年度奨学生 田中碧

みなさま、こんにちは。昨年9月から書いてきたレポートも、今回で最後となります。学期終了後のアメリカでの生活や、留学を終えての感想を中心に書かせていただきます。

○ マンスフィールド

まず、5月の初日には、フィンドレーから車で1時間半ほどのところにあるマンスフィールドへ行きました。ここにきた理由は、有名映画『ショーシャンクの空に』の撮影が行われた刑務所があるためです。ガイドの方が映画の内容を交えながらこの刑務所が実際に使われていた頃のお話をしてくださりました。（画像にある牢屋は映画内で使われたものとは別のようです。）この日は気温が低くダウンジャケットを着てもなお寒かったのですが、このような状況で頼りない空調設備やシャワーを使い生活をしていたと思うと、非常に過酷であることが伺えます。他にも、映画で実際に登場する机や衣装なども置いてあり見所満載でした。



○ 卒業式

翌日には卒業式がありました。午前は大学院、午後は学部生の式でした。学期が終了し多くの生徒がキャンパスをでているため、人は少ないのではと思い込んでいたのですが、実際は卒業生を見届けるため多くの生徒がキャンパスに駆けつけていました。卒業証書授与では、一人一人の名前や学位がアナウンスされ、その度に知り合いの方たちが温かい歓声を送っていました。式の後には、キャンパスのシンボルでもあるアーチをくぐるセレモニーがあり、角帽やローブをまとった卒業生たちの姿が非常にカッコよく見えました。この日に留學生活の終わりをより強く実感して寂しい気持ちにもなりましたが、日本の卒業式の厳かな雰囲気とはまた違った素晴らしい式を経験することができました。



○ 引っ越し

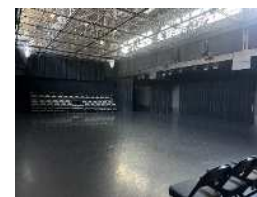
先ほどもお話した通り、生徒たちは4/30の学期終了後、速やかに寮やハウスを明け渡さなければなりません。わたしの場合は、今後ジョブシャドーイング(後程詳しくお話します。)があることや、留学生であり帰国まで住む場所がないことから、3日間の延長滞

在をした後、キャンパス内のインターナショナル生向けのハウスへ移りました。この時の引越し作業はとても大変で、断捨離にはかなり体力を使いました。2学期間、様々な思い出の品に囲まれて、ここで「生活」していたのだなあと改めて実感しました。

#### ○ジョブシャドーイング

ハウスを移動した後は、わたしは2日間のジョブシャドーイングのためコロンバスへと移動をしました。Ohio Department of Development の Erika さん、Toby さんに、わたしの関心(ダンス、芸術や文化合流など)に合わせたアレンジメントをしていただき、さまざまな場所を訪れました。

1日目は主にオハイオ州立大学(Ohio State University/OSU)を見学しました。この大学は勉強やスポーツなどあらゆる面で非常に有名で、キャンパスもフィンドレー大学よりもはるかに大きな場所でした。まずダンスの学科を見学させていただきました。そこにはいくつものスタジオやステージがあるだけでなく、体の動きを分析する技術や、メンタルヘルスとの関わりなど、ダンスという領域が芸術だけにはおさまらないことを学び非常に興味深いものでした。他にも、この大学で日本語を教える日本人教員の方とお話しする機会もいただきました。日本人としてアメリカで生活する中で、似たような感情や経験をされてきた方とお話しできた機会は非常に貴重なものでした。



その後は、Ohio Arts Council の方々からもお話を伺うことができました。この方々は芸術関連のイベントを支えるあらゆるお仕事をされており、自分の今後の進路を考える上で刺激となる話をたくさん聞かせていただきました。

2日目は、初めに BalletMet というプロのバレエ団のリハーサルを観させていただきました。立ち姿だけでも美しいダンサーの方々が真剣に踊る姿を間近で観ることができ、衣装や小道具がないにも関わらずストーリーが伝わってきてとても感動しました。



その次には、Ohio Department of Development ディレクターの Lydia さんの前で、埼玉県やフィンドレーに関するプレゼンをする機会をいただきました。Lydia さんは日本を何度か訪れたことがあるようで、埼玉についてもご存じでした。毎年奨学生からプレゼンを聞くのが楽しみだと温かく迎えてくださり、日本の鉄道に関してお話ししたときには自ら新宿駅で撮った写真を見せてくださるなど、リラックスした雰囲気ですごく過ごすことができました。

した。

最後には、Yokoso Center ディレクターの Asako さんとお話する機会をいただきました。このセンターは、Japan Marketplace のひとつで、日本文化体験や、世界各国の文化を紹介するイベントを開催するなど、人々の憩いの場となっているスペースです。施設内は清潔感と、和を感じられるデザインに溢れていて、建物に対する日本ならではのこだわりや快適さを感じられました。また、この Japan Marketplace には他にも日本食マーケット、寿司屋、ラーメン屋、雑貨屋などあらゆるお店が集まっており、それらに対する思い入れも聞かせていただきました。個人的に驚いたのはパン屋で、決して和食のような伝統文化ではないものの、日本によくあるパン屋さんの雰囲気は確かに他の国では感じられないものだなという新しい気づきがありました。



この二日間は多くの方々からの歓迎や応援の言葉に背中を押される素晴らしい時間でした。アメリカ生活の最後の最後でこのような素晴らしい出会いをさせていただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

#### ○ ニューヨーク旅行

ジョブシャドーイングを終えた後には、コロンバス空港から出発し、日本人留学生とニューヨーク旅行へ行きました。昨年末に続いてまさかの2回目のニューヨークということでとてもワクワクしました。前回は行かなかったメトロポリタン美術館は、ちょうどファッションショー Met Gala 直後時期だったため、より活気がありました。またロックフェラープラザでは、朝のニュース番組内で放送される有名シンガー、ザラ・ラーソンのライブを無料で観られるラッキーな機会もありました。早朝から並びましたがたくさんの方がおり、さすがニューヨークという印象を受けました。最終日にフェリーからみた夜景はとても綺麗でした。



#### ○ フィンドレーからの旅立ち

ニューヨークから帰った後は、荷造りをしつつ最後のフィンドレーを堪能しようと色々な場所を散歩しました。お世話になった International Admission の方々にもお礼を伝えに行くことができました。また、最終日デト

ロイト空港へ向かう際には、キャンパス内にある教会 College First Churchの方が車を出してくださり、最後まで多くの方に助けていただきながら帰国を迎えました。

#### ◦留学を終えて

この1年間は本当に学びの多い日々で、間違いなく印象的な年となりました。わたしは幼い頃から外国語や異文化に強い関心を持ってきましたが、日本からネットで情報を得たり勉強をしたりすると、実際にアメリカで生活をするのでは得るものの密度が全く違うと感じました。学部生と共に授業を受けることが大変だったことはもちろんですが、言語や価値観の異なる人々と交友関係を気づくことが、個人的に1番重要でそして勇気のいることだと感じました。ですが、わたしはこのフィンドレー大学のキャンパスで、日本人教員の川村先生や青木先生、日本に理解のある方々、日本人留学生の仲間たちからの助けをお借りできる心強い環境で異文化に飛び込むことができました。

この1年では、自信に満ち溢れた人々の魅力にたくさん触れました。例えば授業や研究発表の場でのプレゼンテーションは、まるで社会人かと思うくらいに堂々としていて、惹きこまれました。前学期に受けた Genki Kids の授業では、子供達が間違いを恐れず日本語に挑戦する姿がかっこよかったです。1人の女の子のお母様に「日本語を覚えるのがとても早くて凄いですね。」と伝えると、「そうなんです！この子はとても頭がいいんです。」と、誇らしげに家で日本語を喋っていたエピソードを話してくださったのもとても印象的でした。フィンドレーで出会った方々には、自分や身近な人の行いに誇りと自信をもってそれを自ら発信していこうという姿勢がありました。現地のアメリカ人だけでなく、日本以外から来た同じ留学生という立場の友人たちも、新しい環境に怯えることなく堂々と過ごす大切さを教えてもらいました。

あのときもっと思い切って行けたな、、などと思い返すことは多くありますし、ただのアメリカへの訪問者ではなく、同じ「フィンドレーの学生」として堂々と生活する勇気を持つにはとても時間がかかりました。ですが、このプログラムを通し、私が体験してみたかった本格的なインターナショナルな生活がついに始まったと思うと、これからどうなるのだろうとさらにワクワクしています。そして、こうした学びを胸に、日本での人との関わり方や行動力がどう変化するのかとても楽しみな気持ちです。

世界各国の友達と今も SNS 上で繋がり連絡を取っていますし、すでに複数の友人と、日本に来て遊ぶ予定を立てることもできました。フィンドレーでの出会いがこの1年間にとどまらず今後も続くことがとても嬉しいです。そして、今後も埼玉県とオハイオ州の魅力をたくさんの人に伝えられたらなと思います。

#### ◦最後に

この1年レポートを読んでくださり本当にありがとうございました！このレポートを通して少しでもフィンドレーに興味を持っていただけたら幸いです。

そして、このような機会をくださった埼玉県国際課のみなさま、派遣決定当初からお世話になった川村先生、フィンドレー大学の方々、快くアメリカへ送り出し応援してくれた家族や友人をはじめ、この留学に関わってくださった全ての方々に改めて感謝申し上げます。



本プログラムやフィンドレーでの生活に関して何か気になることがございましたら、[tanakam1@findlay.edu](mailto:tanakam1@findlay.edu)までお気軽にご連絡ください。少しでも皆様のお力になることができれば幸いです。